

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	4 年	2	必修
担当教員			
竹上 健			

授業のねらい（概要）	4年次における経営学卒業研究Ⅱでは、教育工学・情報処理教育を研究テーマとする。授業では、経営学卒業研究Ⅰで取組んだ研究テーマについて継続して活動しつつ、ゼミ生が協力し合って、外国人を含む地域在住者との情報処理関連の交流を企画・開催し、必要に応じて教育指導を実践する。実践後は学習講座のまとめを行うとともに効果的な指導法に関する評価を行い、学習講座のテーマや教材の修正を行う。これらの実践結果についてプレゼンテーション発表を行いながら、自らの学習指導体験に基づく考察を加えた卒業論文制作を行う。
授業計画	① 経営学卒業研究Ⅱについて（授業目標、成績評価の方法など） ② 経営学卒業研究Ⅰ発表会（プレゼンテーション）の内容の再確認 ③ 地域在住者を対象とした多文化交流支援の企画と学習プログラムの再検討 ④ 地域在住者を対象とした修正版日本語学習支援プログラムの確定 ⑤ ビデオ通話ソフトの1対1での通話の実践企画 ⑥ ビデオ通話ソフトの1対多数での通話の実践企画 ⑦ 経営学卒業研究Ⅱ日本語学習支援プログラムの実践 ⑧ 経営学卒業研究Ⅱ日本語学習支援プログラムの問題点把握 ⑨ 経営学卒業研究Ⅱ日本語学習支援プログラムの修正改良 ⑩ 経営学卒業研究Ⅱ発表会（プレゼンテーション）の準備 ⑪ 経営学卒業研究Ⅱ発表会（プレゼンテーション） ⑫ 卒業論文執筆① ⑬ 卒業論文執筆② ⑭ 卒業論文執筆③ ⑮ 卒業論文提出、経営学卒業研究Ⅱに関するまとめ
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	2. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢 3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力 4. 大学での学びを地域に還元し、価値を創造する姿勢
到達目標	①地域在住者向けの学習プログラムを検討し、そのプログラムを実践できる。 ②学習講座開催後に受講者の要望を踏まえて学習プログラムを修正することができる。 ③修正した学習プログラムに基づき、地域在住者対象の学習講座を企画・実践できる。 ④発表構成を組み立てられ、プレゼンテーションを実践できる。 ⑤自らの体験に基づいて考察を行い、卒業論文制作につなげることができる。 ⑥卒業研究の内容を論文としてまとめられる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	翌週の授業のはじめに課題などを確認しながらフィードバックを実施。
履修上の注意	・経営学卒業研究Ⅱはゼミ生全員が協力して行うが、中心となって行う演習の具体的なテーマはグループごとにすべて違ったものである。本人が努力しない限り結果が得られないことを自覚しておくこと。 ・学習量、作業量などが多くなるので、経営学卒業研究Ⅱ以外の時間を活用する必要がある。このため、自己のスケジュール管理を十分に行い、準備不足などを起こすことが無いよう努めること。 ・経営学卒業研究Ⅱに関する連絡はLINEを使って行う場合が多くなるので、各自が都合のよいLINE環境を用意し、メッセージ確認の確実性と頻度を高めておくこと。
成績評価の方法・基準	①毎週の演習課題の対応状況(25%)、作成教材(25%)、プレゼンテーション実践(25%)、卒業論文(25%)の結果で総合的に評価する。 ②毎週の演習課題の対応回数が80%に満たない者、地域在住者対象を対象とした学習講座を行わない者、教材作成・卒業論文制作を行わない者には、単位を認定しない。

教科書	特に使わず、電子教材・課題プリントを配布する。
参考書・教材	自らが検索・収集することとするが、必要に応じて紹介する。
備考	
教員との連絡方法	電子メール、LINE（アドレス等は初回の授業で通知。）